

◇第8章初等教育における歴史科の目的とは

「歴史が学問的歴史家にとってなんであろうとも、教育学者にとってはそれは一個の間接の社会学—社会の生成の過程と組織の様式をあきらかにするところの社会研究であらねばならぬ。」 p 183

→ デューイの考える歴史科の目的を簡潔に述べた文章。以後の文章で詳しく説明している。

◆とりあつかう歴史(経済・産業)について

「歴史は結果或いは影響の集積、すなわち生起したことのたんなる叙述ではなくて、力にあふれた、活動しつつあるものとして提示しなければならぬ。」

→ 力動的で運動的なものとして経済的・産業的側面から歴史を取り扱うことを述べている。

◆ 一個の間接の社会学—社会の生成の過程と組織の様式をあきらかにするところの社会研究について

「歴史を学習するということは、知識を蒐集するというということではなくて、いかに、そしてなぜ人間はかくかくのことを為したか、いかに、そして、なぜかれらはその成功をかちえたか、或いはその失敗をまねくにいたったかについて躍如たる画像を構成するために知識を使用するということである。」

→ 社会の生成の過程のことについて説明している。

「人類はいかにして生活するかという問題は、まさに子どもが歴史的な教材に接近するばあいの支配的な興味を代表するものである。」 p 185

「この同じ目的、すなわち社会生活の認識を深めるということが、歴史教授における伝記的要素の地位を決定する。」 P186

→ 組織の様式をあきらかにすることについて説明している。

デューイにとって歴史とは、人間がどのように知力をつかい生活を改善したか、生活そのものを変容させるために、生活の状態を変改することを学んだのかの記録である。この歴史を学習することで、子どもを社会生活の正しい理解へと導くのと毎日交渉をたもっている人と結び付ける(協同か?)目的が達成できると述べている。

※ヘルバルトの主義の歴史教育 → 厳密な年代記的な歴史学習

「子どもからかけはなれているものではなくて、精神上近接するものでなくてはならぬ。」

→子どもに身近な歴史が必要。

◆デューイの歴史学習の三つの時期

第1の時期	子どもの社会活動に対する洞察と共感を与える目的の歴史	「ロビンソン ハイウォサ」
第2の時期	明確な意義を持ち、全世界の歴史に果たした貢献	「ヨーロッパとアメリカの結び付き」
第3の時期	年代的な順序	「古代世界からはじまりヨーロッパ」

この歴史学習は思考の産物ではなく、一年一年と主題を入れかえ実験し得た結果手に入れたものである。